

三重大学医学部附属病院は県内唯一の特定機能病院として高度な医療を安全に提供し、県内で国内最先端の医療が受けられる体制を発展させ、先進的な医療の成果を三重から世界に発信します。

医療教育機関として卒前・卒後教育をさらに充実させ、地域の多様な患者に医療を提供できる医師と看護師を育成するとともに、研究マインドを持つ若手医師を育てます。また、多職種連携を重視して県内のメディカルスタッフや医療事務人材の育成をすすめ、タスクシフト・シェアを推進して次世代の働き方改革を実現します。

県民全体に質の高い医療を効率的に提供するため、麻酔医、救急医、2次救急に対応できる総合診療医・内科医などを増加させ、県全体の診療科偏在を是正して医師の適正配置に努めます。

医療DXを推進して県民がPHRによる24時間健康把握やAI受診推奨等を利用できる体制を整え、三重大学と県内の医療機関・薬局を結んでスマートホスピタル化します。予防医学分野においても医療DXと情報提供を推進して、県民の健康寿命延伸を図ります。

三重大学医学部附属病院関係病院長会議やみえの未来医療会議などの地域連携プラットフォーム機能を向上させ、

地域医療連携法人制度の活用等を検討しながら、地域医療資源の有効活用に向けた改革を行います。

三重大学医学部附属病院の経営改善を推進し、先端医療の充実と広報強化、県下病院との連携強化によって、県民が県内で治療できる体制の強化を図ります。

医学・医療の推進のための臨床研究を充実させるため、臨床研究開発センターのデータサイエンス支援機能の強化に向け、全学組織化を検討します。

感染症危機管理人材育成センターを発展させ、三重県や保健所等への人材育成・派遣と共に、県内の感染症対策の中核としての役割を果たします。また、災害対策推進・教育センターの拡充、行政機関等と連携した災害医療の強化や救急医療のDX化と集約化を進めて県民がより安心できる体制を構築します。

